

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/4 （7/28との比較）	8/4 （7/28との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.92% （▲0.11）	87.53円 （▲1.66%）	+2.3% 2017年1Q	0.75%	景況感指数や製造業PMIなどが前回は上回り、景気拡大への期待が強まる。主要産油国の原油輸出削減の決定や米国の原油在庫減少が材料視され、カナダドルは対円で下落。国債利回りは低下。	住宅着工件数などが発表予定。足元の経済の勢いが確認できるか注目される。NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉のほか、OPEC（石油輸出国機構）加盟国・非加盟国の会合を受けた原油価格の動向やベネズエラ情勢に注意。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	8.94% （▲0.14）	35.34円 （+0.01%）	-0.4% 2017年1Q	9.25%	経済指標はまちまちの結果。大統領の裁判開始の是非を問う下院採決は反対多数で否決。レアルは対円で小幅上昇。国債利回りは低下。	インフレ統計などの発表を予定。市場予想は低下を見込む。債券市場は中銀の緩和的な政策スタンスなどから堅調に推移すると見込むも、為替市場は政治情勢などから神経質な展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	6.76% （+0.01）	6.19円 （▲0.61%）	+2.8% 2017年1Q	7.00%	4-6月期GDP（国内総生産）速報値は前期比で市場予想を上回ったものの、良好な米雇用統計を受けて米国の金融引き締め観測が高まったことなどから、ペソは対米ドル、対円でともに下落。国債利回りは小幅上昇。	金融政策決定会合を予定。中銀が今後の金融政策の方向性について言及するか注目。NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉や、中銀の金融政策の動向をにらみつつ、債券・為替市場は神経質な展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/4 （7/28との比較）	8/4 （7/28との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.62% （▲0.06）	87.75円 （▲0.74%）	+1.7% 2017年1Q	1.50%	中銀は政策金利の据え置きを決定。貿易収支は市場予想を下回るも、小売売上高は市場予想を上回る。中国PMIの良好な結果を受けて鉄鉱石価格が上昇。国債利回りは低下。オーストラリアドルは対円で下落。	政策金利は当面据え置きを予想。消費者信頼感指数や企業景況感、企業信頼感などの発表を予定。米中の貿易問題や中国の貿易統計、鉄鉱石価格動向に引き続き注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.89% （▲0.09）	81.99円 （▲1.40%）	+2.5% 2017年1Q	1.75%	4-6月期の労働統計では雇用者数が市場予想に反して減少し、賃金の伸び率も市場予想を下回る。企業活動見通しは高水準ながら勢いが鈍化。一連の経済指標を受けてニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	金融政策決定会合を予定。インフレ率の伸びが安定し、景気の勢いも鈍っているため、政策金利の据え置きを予想。同日に発表される金融政策報告書で示される中銀の景気やインフレの見通しに注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.62% （▲0.04）	13.96円 （▲0.09%）	+2.6% 2017年1Q	0.50%	7月の製造業PMIは良好な結果で、景気が堅調に推移していることを示唆。一方、7月の住宅価格は前月比マイナスで、過熱感が和らぐ動きが継続。ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	景気回復局面が続いている一方、ペースは当面緩やかとなる見込み。鉱工業生産やインフレ率などの発表が予定されているが、政策金利が低水準で長期間据え置かれるとの市場の見方を覆すには至らない見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/4 (7/28との比較)	8/4 (7/28との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
南アフリカ 	BBB-	7.57% (+0.05)	8.23円 (▲3.11%)	+1.0% 2017年1Q	6.75%	貿易収支は黒字幅拡大も、製造業PMIは鈍化。同国経済に対する先行き不透明感の高まりを受けて、国債利回りは上昇。ランドは対米ドル、対円でともに下落。	製造業生産や企業景況感などの発表を予定。国内情勢を反映し、悪化を予想。8日に大統領不信任投票を控え、同国の不安定な政局に注目が集まりやすく、債券・為替市場ともに不安定な展開を予想。
	Baa3	 金利上昇	 為替下落	 景気鈍化	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	6.71% (▲0.07)	0.83円 (+0.12%)	+5.0% 2017年1Q	4.75%	製造業PMIは2カ月連続で50を下回る。CPI及びコアCPIの前年比伸び率は鈍化。また、中銀総裁が金融緩和を実施する可能性を示唆したことを受け、国債利回りは低下。ルピアは対円で上昇。	4-6月期GDP（国内総生産）の発表を予定。GDPの伸び率がさえない結果となれば、中銀による金融緩和への期待が高まり、国債利回りは低下しやすい地合いを予想。一方、ルピアは安定的に推移する見込み。
	Baa3	 金利横ばい	 為替横ばい	 景気拡大	 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.44% (▲0.12)	1.73円 (▲0.23%)	+6.1% 2017年1Q	6.00%	製造業PMIは鈍化。中銀の政策金利の引き下げを受けて、国債利回りは低下。ルピーは対米ドル、対円でともに下落。	鉱工業生産などの発表を予定。足元で低調な経済指標が散見される中、GST（物品・サービス税）導入が同国経済へ与える影響に引き続き注目。安定した国内情勢から債券・為替市場は堅調な推移を予想。
	Baa3	 金利横ばい	 為替横ばい	 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

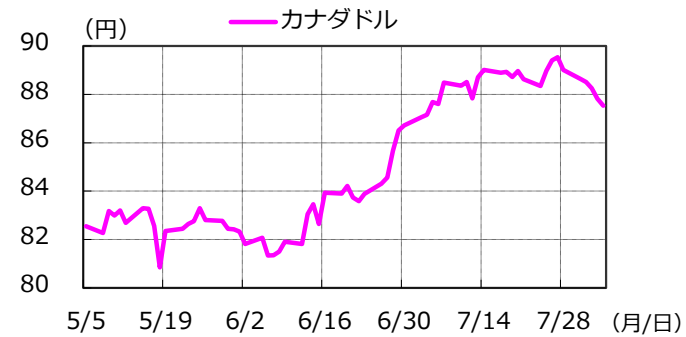
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

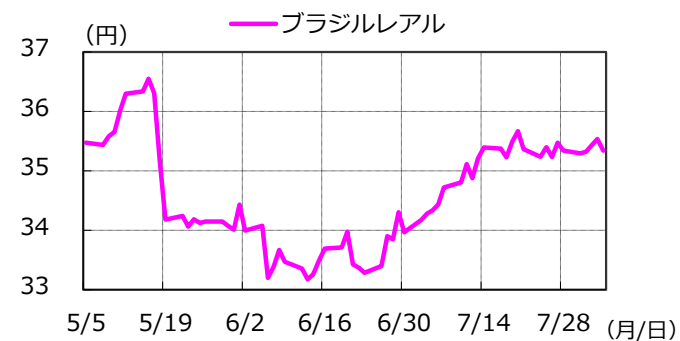
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/5/5～2017/8/4

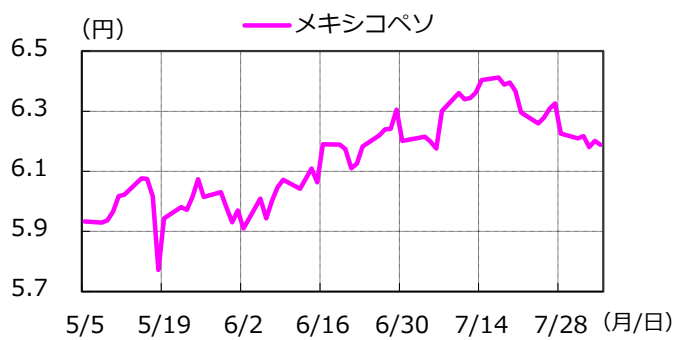
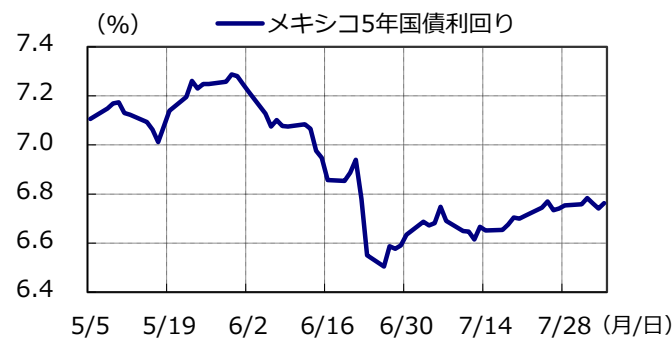
カナダ



ブラジル



メキシコ

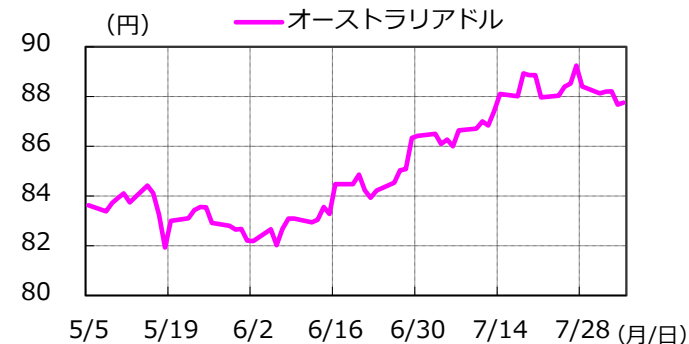
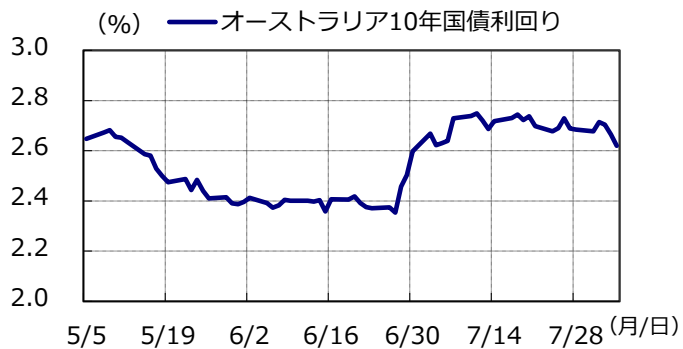


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

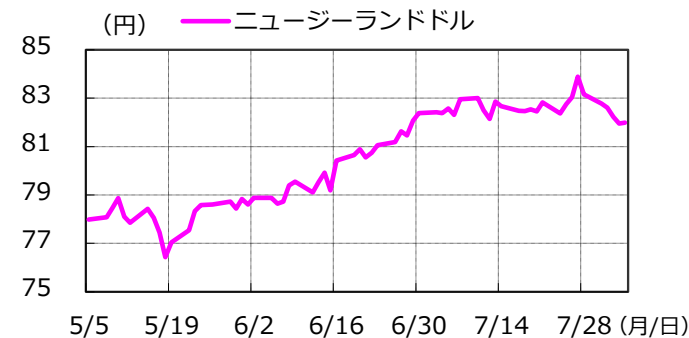
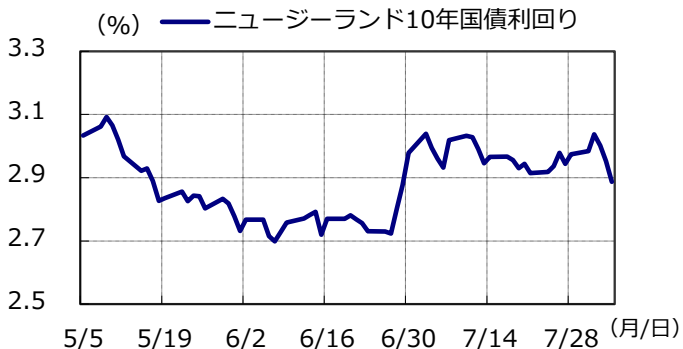
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/5/5～2017/8/4

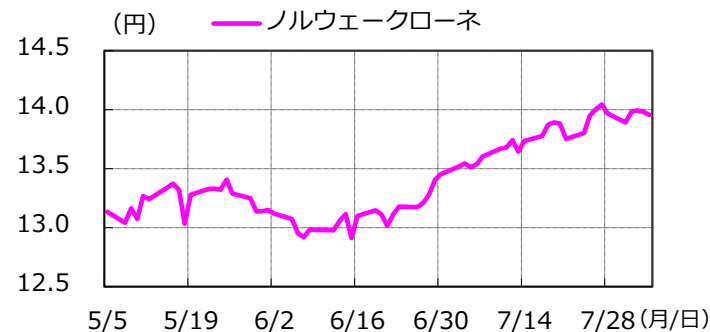
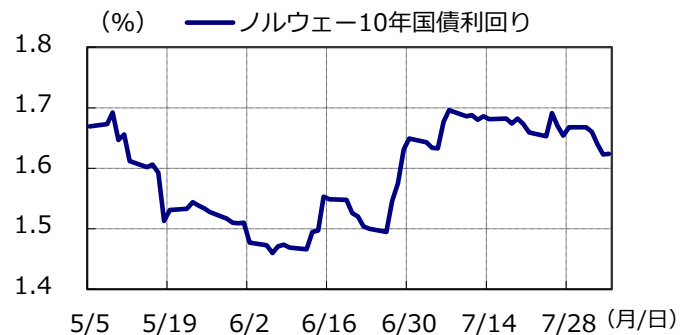
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

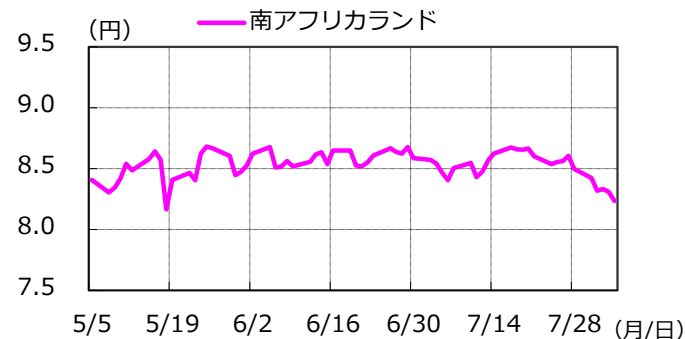
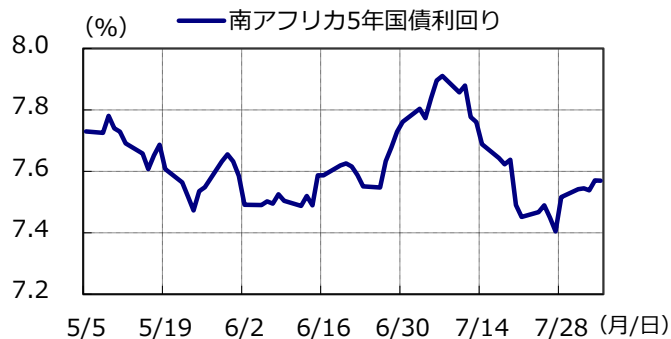


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。(出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

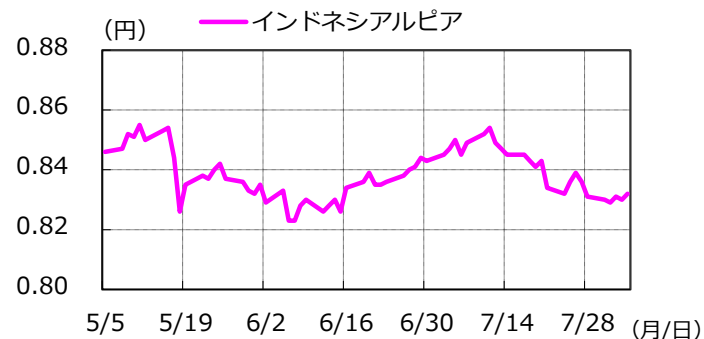
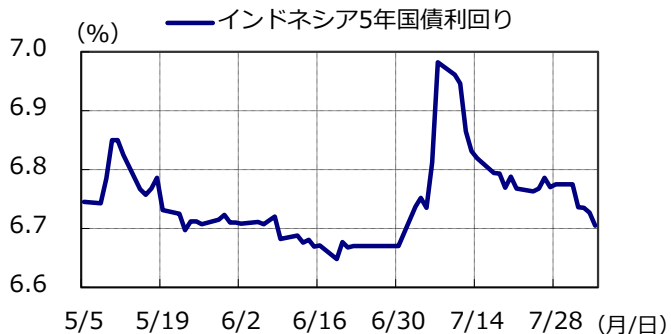
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/5/5～2017/8/4

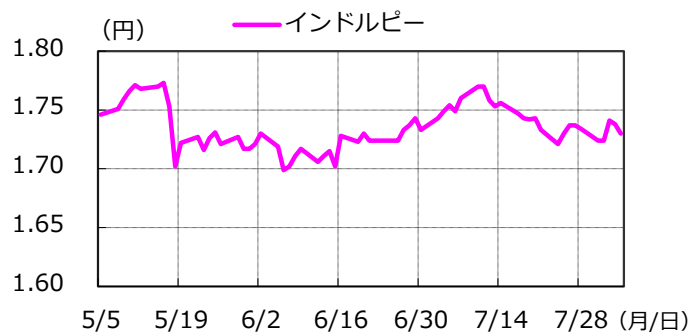
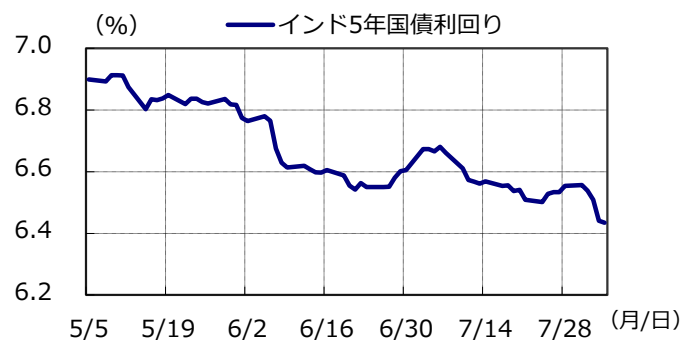
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。